

**頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム
平成 27 年度採択事業にかかる事後評価結果**

整理番号	R2702
代表機関名	金沢大学
主担当研究者所属部局	新学術創成研究機構
関連研究分野	機能物性化学
主担当研究者	水野 元博
事業名	革新的機能性超分子材料開発に向けた日米欧加研究ネットワークの戦略的構築

I これまでの事業実施により得られた成果

(1) 人的交流を通じた国際研究ネットワークの構築・強化についての評価

評 点 3
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり 2 名（准教授 1 名＝348 日、助教 1 名＝386 日）を派遣した。 ・計画どおり 4 名を招へいた。 ・マサチューセッツ工科大学とブリティッシュコロンビア大学に派遣された若手研究者はともに高い研究成果を上げ、マサチューセッツ工科大学との研究成果が 3 報の共同研究論文として発表されたこと、また、ブリティッシュコロンビア大学との間で学生の相互派遣が複数始まっていることは、本プログラムの趣旨から高く評価できる。 ・招へいに関しては、予定された研究者は全て来日しているが、当初予定された滞在日数より短くなっており、中には予定の半分程度の滞在日数となった者も見受けられることから、相互交流という意味では十分とは言い難い。 ・シンポジウムを毎年開催し、学生を含めた関係者の研究推進に貢献したことは評価できる。 ・予定されていたサウサンプトン大学及びアムステルダム大学との交流はまだ準備段階であり、これらの拠点を含む海外連携機関との共同研究が当初の計画の大きな部分を占めていたことを考えると、国際的な日米欧のネットワークが十分に構築されたとは言い難い。 <p>以上のことから、期待される成果は概ね達成していると評価できる。</p>

(2) 国際共同研究課題についての評価

評 点 2
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣された若手研究者はそれぞれ独自性の高い研究成果を上げており、マサチューセッツ工科大学の派遣者は一流誌に 3 報の共同研究論文を発表していること、また、ブリティッシュコロンビア大学の派遣者も 1 報の共同研究論文を投稿済みであることは評価できる。 ・本事業の研究交流・共同研究を通じて 64 報の論文が学術誌に掲載され、そのうちインパクトファクター 10 以上の学術誌への掲載が 8 報あることから、一定の成果を上げていると言える。 ・しかしながら、海外連携研究者との共著論文が 3 報と少なく、サウサンプトン大学及びアムステルダム大学との共同研究はまだ準備段階であり、十分な研究成果を上げているとは言えない。 <p>以上のことから、期待される成果はある程度達成していると評価できる。</p>

Ⅱ 今後の展望

評 点 4

コメント

- ・本事業を一つの契機として金沢大学が設立した世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI) 拠点「ナノ生命科学研究所」や同大学の「ナノマテリアル研究所」を通じ、本事業に携わった研究者によって国際研究ネットワークが継続・拡充されていくことが期待できる。
- ・また、「ナノ生命科学研究所」のリサーチプロフェッサーとして、海外連携機関であるブリティッシュコロンビア大学の主要連携研究者を受け入れていることも高く評価できる。
- ・そのほか、サウサンプトン大学には学生の派遣も始まっており、国際研究ネットワークの継続・拡充による展開が期待できる。

以上のことから、今後の展望は高く評価できる。

総合的評価

評 点 3

コメント

- ・マサチューセッツ工科大学とブリティッシュコロンビア大学に派遣された若手研究者がともに高い研究成果を上げ、マサチューセッツ工科大学との研究成果が3報の共同研究論文として発表されたこと、また、ブリティッシュコロンビア大学との間で学生の相互派遣が複数始まっていることは、本プログラムの趣旨から高く評価できる。
- ・また、本事業を一つの契機として新たな研究所が設立され、新設された研究所のリサーチプロフェッサーとして海外連携機関の主要連携研究者の一人を受け入れていることも、若手研究者の交流を基にして国際研究ネットワークを構築し、その継続・拡充への展開を期待する本プログラムの趣旨に合うことであり、高く評価できる。
- ・しかしながら、英国のサウサンプトン大学、オランダのアムステルダム大学と予定されていた共同研究がまだ準備段階であり、日米欧のネットワークを構築するという当初の目的が達成されていない点は残念である。今後、数多くの共著論文が発表されるなど、国際共同研究の成果が見える形となることが強く望まれる。今後の発展を期待したい。

以上のことから、総合的に概ね高く評価できる。

※評点に対する標語は下記の通り。

【Ⅰ (1)、(2)】

4=十分達成している 3=概ね達成している 2=ある程度達成している 1=ほとんど達成していない

【Ⅱ、総合的評価】

4=高く評価できる 3=概ね高く評価できる 2=ある程度評価できる 1=ほとんど評価できない